

2023年11月に『エリザベス女王 切手に最も愛された96年の軌跡』という本が出ました。

(山田廉一 イギリス切手収集家/JPS理事長著)

ところが、この本のページ見本を見ると、長く収集家に呼び親しまれてきた『マーチン』シリーズを『メイチン』と表記しているのです。『郵趣』



記事欄外に「本書では本国の発音にあわせて『メイチン』と表記」とありますが、日本では『マーチン』で定着しているものをなぜわざわざ変えるのでしょうか？ 本国に合わせる？ では『イギリス』は？ 『イギリス』という国は世界中を探しても日本にしか存在しません。ロンドンへ行って『イギリス』を連呼しても全く通じません。『イギリス』はそのままにして『マーチン』を『メイチン』に変えるとは笑止千万、何をか言わんやです。

「ことば」は正しい発音でなくても、仮に間違っているとしても、人々に定着すればそれがその「ことば」になります。赤くて酸味のあるケチャップの原料になる野菜は『トマト』ですが、英語の発音では『トメイト』です。でも今さら『トマト』を『トメイト』と表記した料理本を出しても混乱を招くだけで意味がありません。今回の本はせっかくの好著が台無しになりました。『トマト』は『トマト』、『マーチン』は『マーチン』なのです。

(記 : 藤岡 靖朝)